

高齢者の社会参加に係る 既存のコーディネーターの特徴

2023年1月19日

東京都 福祉保健局 高齢社会対策部 在宅支援課

既存のコーディネーターの分類

高齢者の社会参加に係るコーディネーターの役割を整理するにあたって、人と活動や団体を結びつけることを目的とした既存のコーディネーターについて、対象となる活動と分野で分類を行った。



対象となる活動	就労	ハローワーク、 シルバー人材 センター 等	就労的活動支援 コーディネーター (役割がある形での高齢者の社会参加等を促進)			
	ボランティア	ボランティア コーディネーター		生活支援 コーディネーター (生活支援・介護予防サービスの体制整備を推進。活動のひとつである資源開発により、高齢者が参加できる活動の場の拡充につながる。)	地域福祉 コーディネーター (支援が必要な人を行政や専門機関などに適切につなぐ)	民生委員 ・児童委員 (相談支援、関係機関への橋渡し等)
	趣味・自己啓発	生涯学習 コーディネーター				
	友人・知人との交流					

(出所) 各種資料に基づき作成

既存のコーディネーターの特徴（1/2）

既存のコーディネーターの詳細は以下のとおりである。

名称	根拠法令等	主たる活動	支援対象となる活動	主な配置場所	研修
生活支援 コーディネーター (地域支え合い推進員)	介護保険法第百十五條の四十五、地域支援事業実施要綱	市町村が定める活動区域ごとに、以下のa からc までの内容を踏まえ、多様な主体による多様な取組のコーディネート業務を実施することにより、地域における一体的な生活支援・介護予防サービスの提供体制の整備を推進する。 a 資源開発（地域に不足するサービスの創出、サービスの担い手の養成、高齢者等が担い手として活動する場の確保等） b ネットワーク構築（関係者間の情報共有、サービス提供主体間の連携の体制づくり等） c ニーズと取組のマッチング（地域の支援ニーズとサービス提供主体の活動のマッチング等）	生活支援 ・介護予防サービス (例：住民の支え合いによる地域活動)	区市町村、社会福祉協議会、社会福祉法人等	都道府県等で初任者研修や現任者研修を実施（制度発足当初は国で実施）
就労的活動支援 コーディネーター	介護保険法第百十五條の四十五、地域支援事業実施要綱	就労的活動の場を提供できる民間企業・団体等と就労的活動の取組を実施したい事業者等とをマッチングし、高齢者個人の特性や希望に合った活動をコーディネートすることにより、役割がある形での高齢者の社会参加等を促進する。	就労的活動 (例：希望に沿った働き方で地域の特産品づくり)	区市町村、社会福祉協議会、社会福祉法人等	都道府県等で養成研修を実施

既存のコーディネーターの特徴（2/2）

名称	根拠法令等	主たる活動	支援対象となる活動	主な配置場所	研修
地域福祉コーディネーター	社会福祉法第106条の3、地域共生社会に向けた包括的支援と多様な参加・協働の推進に関する検討会	主な役割は、住民のニーズや地域のニーズを把握し、ネットワークを構築して支援が必要な人を行政や専門機関などに適切につなぐことであり、住民への「個別支援」と地域づくりを行う「地域支援」を行っている。	包括的相談支援、地域づくりに向けた支援等 （例：地域住民の相談を包括的に受け止め、各分野の相談機関と連携しながら、解決の仕組みにつなげる）	社会福祉協議会	社会福祉協議会で養成研修を実施
民生委員・児童委員	民生委員法、児童福祉法等	地域住民の身近な相談相手として、日常的な見守りや個別相談支援、関係機関への橋渡しを行ったり、各種行事への参加協力や自主的な地域福祉活動等、地域の多様な課題を解決するため、幅広い活動を実施	様々な地域福祉活動 （例：不登校やひきこもり、経済困窮者、ひとり親への支援等）	区市町村各区域において民生児童委員協議会を構成（非常勤の地方公務員）	都道府県、区市町村、民生児童委員協議会等で新任研修や個別研修を実施

（出所）厚生労働省HP、東京都地域福祉支援計画等に基づき作成

名称	主たる活動	支援対象となる活動	主な配置場所	研修
ボランティアコーディネーター	市民がボランティア活動において力を発揮できるよう、市民と市民または組織をつないだり、組織内での調整を実施	ボランティア	ボランティアセンター、民間ボランティア協会	・都道府県域のボランティアセンター等が初任者研修や資質向上研修を実施 ・日本ボランティアコーディネーター協会等に講師派遣依頼
生涯学習コーディネーター	社会教育や学校教育の場において、生涯学習者と地域の学習資源とを繋ぐ活動を実施	学び・自己啓発	生涯学習推進センター等の公的施設、企業・団体	一般財団法人通信教育協会による資格認定や、地域によってはNPO法人による独自の研修を実施

（出所）日本ボランティアコーディネーター協会HP、ボラ市民ウェブ、一般財団法人通信教育協会HP等に基づき作成

研修メニュー例（生活支援コーディネーターの例）

【厚生労働省・中央研修(平成26年度)の例】

生活支援コーディネーター（地域支え合い推進員）に係る中央研修

目次

はじめに	1
I 生活支援コーディネーター（地域支え合い推進員）と協議体に期待される機能と役割	3
II 高齢者に係る地域アセスメントの手法について（社会資源の把握、地域の生活支援ニーズの把握）	25
III サービス開発の方法	37
IV 生活支援コーディネーター（地域支え合い推進員）が行うべきアセスメントと支援の視点	55
V 高齢者の生活支援ニーズと生活支援サービス	65
参考資料	79
介護保険制度の改正について	81
多様な主体による多様な生活支援サービス事例について	117
研修映写用資料	161
関係団体テキスト紹介	211
コーディネート機能及び協議体の構築に関する実践事例	213
委員名簿	259

【東京都・初任者研修（令和4年度）の例】

研修時間	科目名		形態
事前動画視聴	東京都からの行政説明		講義
	住民主体の地域づくりの意義と考え方		
【1日目】 13:00～17:00	オリエンテーション		
	動画内容に関する質疑応答		質疑応答
	東京における生活支援体制の整備と各区市町村の状況		情報交換
	住民主体の地域づくりの理念と実践	○生活支援コーディネーターの実践報告	事例検討 質疑応答
		○事前課題の共有	意見交換
	1日目の振り返り	○私のアクションプラン 1「気づき」の作成	質疑応答 演習
【2日目】 10:00～17:00	オリエンテーション		
	地域づくりの全体像を理解する	○地域づくりの全体像について	講義 事例検討 意見交換
		○生活支援コーディネーターの動き方・視点～地域づくりの展開プロセスに沿って	
まとめ	○私のアクションプラン 2「行動計画」の作成	質疑応答 演習	

研修時間 12時間

（出所）東京都福祉保健局HPから抜粋

（出所）厚生労働省HPから抜粋

研修メニュー例（ボランティアコーディネーターの例）

【日本ボランティアコーディネーター協会 講師派遣研修の例】

1. ボランティアについて

(1) 初心者向け (ボランティアとは)	ボランティアに関心はあるが活動の経験がない、何かしたいがどうしていいのかわからない、まだ始めたばかりで基本的なことを聞きたい、など、ボランティア活動の初心者を対象とした講座です。ボランティア活動の性質や実際を知ることで、活動へのハードルの高さや能力ディブな面を払拭し、参加のきっかけづくりやできることから始めてみようというモチベーションアップにつなげます。
(2) 活動者向け (ボランティアの本質と価値を掘り下げる)	ボランティア活動経験がある方があらためてボランティアとは何かを学び、考えるための講座です。ボランティアの概念の広がりや社会のなかでの位置づけの変化などをふまえて、基本に立ち返ることで、ボランティアの意味や価値を再確認します。日頃の活動を重ねる中で生じてきた疑問や違和感などにもこたえます。
(3) スタッフ向け (自治体職員、施設職員、教員など、ボランティアと協働する側へ)	ボランティアの受け入れや活動を推進する立場の方が、ボランティアの基本を学ぶための研修です。ボランティアの理念や歴史、ボランティアが持つ強みや弱みを理解し、ボランティアの特長を活かした受け入れや協働ができるようにするための研修です。ボランティアコーディネーションの概論とセットで行うことをおすすめします。

2. ボランティアコーディネーション総論（概論）

あらゆる分野・場面で活動するボランティアコーディネーションにかかわる方向向けの研修で、主に初心者を対象としています。内容は「ボランティア（活動）の理解」「ボランティアコーディネーションとは」「ボランティアコーディネーターの役割」「ボランティアコーディネーションの実務」などを学びます。

参加対象に応じてボランティアコーディネーションの実例やエピソードを交えてお話しします。講義だけではなくミニワークなどを挟みながら行うとより効果的です。

3. ボランティアコーディネーション各論 I ～組織タイプ別～

内容	詳細
(1) ボランティアセンター等の中間支援組織におけるボランティアコーディネーション	ボランティアセンター、市民活動支援センター、NPOサポートセンター、大学ボランティアセンター、など、人や団体や金品などの資源と資源を間に入ってつなぐタイプのコーディネーションを実践する方向向けの研修です。「中間支援組織の役割」や「中間支援組織が備えるべき基本機能」などを学んでいただきます。また基本機能のなかから重点的なはたらきを取り出して演習やグループワークなどを取り入れることができます。
(2) 施設・団体におけるボランティアコーディネーション（ボランティアマネジメント）	ボランティアを受け入れている（受け入れを検討している）組織のボランティアコーディネーター、ボランティア受け入れ担当者向けの研修です。社会福祉施設・事業所、病院、社会教育施設、文化芸術ホール、公園などの公共施設や空間、その他あらゆる分野のNPOのスタッフを対象としています。中間支援組織の方を交えて混合で開催することもできます。
(3) スタッフ向け (自治体職員、施設職員、教員など、ボランティアと協働する側へ)	ボランティアの受け入れや活動を推進する立場の方が、ボランティアの基本を学ぶための研修です。ボランティアの理念や歴史、ボランティアが持つ強みや弱みを理解し、ボランティアの特長を活かした受け入れや協働ができるようにするための研修です。ボランティアコーディネーションの概論とセットで行うことをおすすめします。

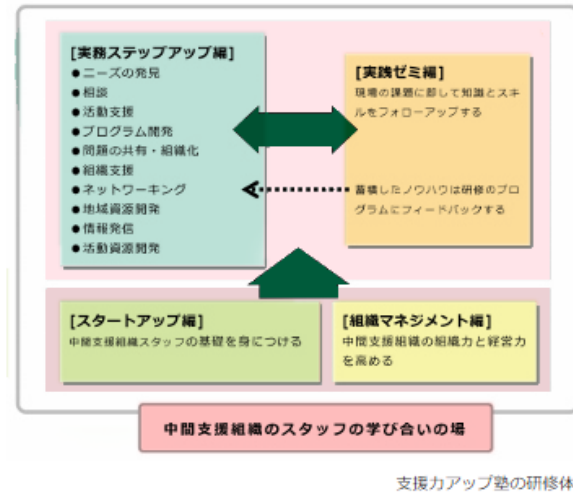
4. ボランティアコーディネーション各論 II ～実務・スキル別～

(1) 相談援助	ボランティアコーディネーターが受ける相談への対応に焦点をあてた研修です。基礎的な考え方やスキルから、組織の性格によって事例を選択したり、参加者に困難事例を持ち込んでいただいたりしながら、実践に役立つ気づきと学びを提供します。
(2) プログラム開発	ボランティアの受け入れや協働を進めていく上で必要になるのが「ボランティアプログラム」を作成することです。そのためには関係者のニーズをしっかりと把握し、ボランティアが参加する意味や魅力ある内容にするための考え方や組み立て方などについてワークシートを用いて段階をふんで学びます。
(3) リスクマネジメント	NPOにとつてのリスクマネジメントは企業と共通するところもあるれば、全く違う視点求められる部分もあります。この講座ではボランティアを受け入れるためのリスクマネジメントに焦点化し、講義と演習、事例検討などを交えて学びます。
(4) グループ導、グループ支援	ボランティアグループやボランティア連絡会の運営や、支援する際のポイントなどについて学ぶ研修です。ボランティアグループのリーダー向け、支援をする中継支援組織のスタッフ向けなど、対象に応じて企画します。
(5) 研修の組み立て方	各種のボランティア向け講座やボランティアコーディネーターを対象とする研修の組み立て方を演習を交えて学びます。研修で使えるファシリテーションスキルや参加を促す研修プログラムの組み立て方、進め方の解説もします。
(6) アイスブレイク	集団での学びや話し合いを効果的に進めるためのアイスブレイクの技法について学びます。目的や場面に応じて使える技法を複数習得しましょう。
(7) 会議運営	退屈な会議から楽しい会議へ、よくわからない会議から納得感のある会議へ、会議の全体像を理解しながら、円滑に運営するためのあり方とやり方を学びます。
(8) ファシリテーション	ファシリテーションってなに？ という基本的なことから、目的や場面に応じたファシリテーションのコツまで、ニーズに応じた内容でファシリテーションを学びます。
(9) プレゼンテーション	基本的なプレゼンテーションのポイントを学びます。話す際の発声から話の組み立て方までのコツ、「伝える」と「伝わる」の実際を体感しながら学びます。
(10) 評価活動・効果の可視化	ボランティア活動の評価について考え方やアプローチについて学びます。また、ボランティア・活動対象者・団体・社会、4つの立場からみたボランティア活動の効果や意義について、段階的に言語化する研修もあります。

5. ボランティアコーディネーション各論 III ～分野別～

(1) 社会福祉協議会（社協）	社協のボランティアセンターのスタッフ向けの研修です。近年、ボランティアコーディネーターという職名ではなく、地域福祉コーディネーターや地域福祉推進部署のスタッフと兼務するケースもあるため、参加対象を広げて設定することも可能です。
(2) 小地域福祉活動、まちづくり活動	小地域での見守りや地域おこし活動などを進める地域のキーパーソン、市民団体のリーダー、中間支援センターのスタッフなどを対象に、ボランティアコーディネーションの基本と展開例をお話します。
(3) 福祉教育・ボランティア学習	学校と地域をつなぐコーディネーションのあり方やノウハウ・戦略を学びます。また、子どもたちの効果的な学びにつながる体験プログラムの作り方や進め方（手順）などに焦点をあてた研修も企画します。
(4) 大学生・若者参加	大学生や若者世代のボランティア参加を進めるために必要なボランティアコーディネーションについて学びます。いまだきの若者の生活スタイルや傾向など、若者の側のニーズを把握し、それに応えるようなボランティアプログラムについて考えます。
(5) シニア・退職者参加	退職した方や高齢者層の社会参加のきっかけづくりやボランティアプログラム開発に必要なボランティアコーディネーションについて学びます。
(6) 福祉施設	社会福祉施設や福祉サービス事業所に特化したボランティア受け入れの基本を学びます。中堅のボランティアコーディネーター向けの研修の場合は、テーマをばらばらに、事例や課題を持ち寄り、参加者にニーズに応じた企画ができます。また、参加対象を高齢福祉、障害福祉、児童福祉、子育て支援など、分野を限定しての開催も可能です。
(7) 病院	病院におけるボランティアコーディネーションの基本を学びます。医療スタッフがボランティアコーディネーターを兼ねている場合、活動するボランティアグループのリーダーがコーディネーターを兼ねている場合、いずれも対応できます。福祉施設と同様に、中堅のボランティアコーディネーター向けの研修も可能です。
(8) 環境保全	ボランティアやNPOによる、環境保全活動の歴史と実際、参加の方法等、ボランティアコーディネーションの具体的な例などを交えて、その基本を学びます。
(9) 外国籍住民	外国籍の住民のためのボランティアコーディネーションの基本を学びます。また、外国籍住民がボランティア活動を行うことの意味や具体例などを述べて、外国籍住民自身が行うボランティアコーディネーションについての視点からもお話しします。
(10) 生涯学習、博物館、文化芸術ホール	図書館、博物館、美術館、文化ホールなどの文化・社会教育施設におけるボランティアコーディネーションの基本を学びます。対象を絞っての開催も可能です。
(11) 災害	災害時のボランティアコーディネーション、災害ボランティアセンター運営に必要なボランティアコーディネーション、ボランティアコーディネーターが平時に備えておくべきポイントなどを学びます。

【東京ボランティア・市民活動センター 支援力アップ塾の例】



(出所) 日本ボランティアコーディネーター協会HP、ボラ市民ウェブから抜粋